

森林工芸館の

あれこれ

no.33
12
2022



オケクラフトの誕生から十年が経過し
作り手の育成やオケクラフトの販売
地域への還元の方法など
様々な問題が見えてくるようになったこの時期
「クラフトパーク構想」の実施計画が策定され
秋岡資料の収蔵基地「どま工房」が完成するなど
オケクラフトを中心として見据えた
クラフトパーク構想への動きがみられます
時を同じくして
オケクラフトの生みの親 秋岡芳夫さんがご逝去
オケクラフトの今後について
考えさせられる期間となりました
森林工芸館のあれこれ no.33 では
【オケクラフトの歴史 No.6】
一九九四年から一九九九年間での歴史について
ご紹介します

オケクラフトの
No.6 歴史
Since.1983



pick up

1994年

- 1月 ◎ オケクラフト 新人展 **pick up**
◎ 体験交流センター前へアオサギ設置
- 3月 ◎ クラフトパーク実施計画策定 **pick up** …no.06/no.32 参照
◎ 拓殖パークゴルフ場へクマガエラ設置
◎ 地域産業開発センターを森林工芸館に統合
◎ ベレア大学交換留学生第一号来町(6月)
- 11月 ◎ 山村文化資源保存伝習施設「どま工房」完成 **pick up**
- 12月 ◎ 勝山温泉ゆうゆうへシロハヤブサ設置

1995年

- 1月 ◎ どま工房 本オープン → 開館記念展示「触ってみる展」
◎ どま塾開始 → 開館記念展示と連動した講座が実施された
◎ 置戸高校へオオワシ設置

1996年

- 8月 ◎ 沖縄クラフト展開催
- 9月 ◎ オケクラフトフェスティバル開催

1997年

- ◎ オケクラフト研修(2年研修)開始
- 4月 ◎ オケクラフトの生みの親 秋岡芳夫氏逝去 **pick up**
◎ インターネットホームページ開設(9月)
◎ 白樺を利用したクラフトの新シリーズが誕生(9月)
- 12月 ◎ 秋岡生活資料一括寄贈される

1998年

- ◎ オケクラフト研修(1年研修)開始
- 4月 ◎ どま工房生活資料研究員「増田倫子」配置

1999年

- ◎ 秋岡資料錆び防止作業開始(1月)
- ◎ 木工クラフト先進地大野村から交流に
- ◎ オケクラフト研修生募集休止
- 6月 ◎ 秋岡生活資料、どま工房で常設展開始
→ 資料整理と並行して常設展が開始された
- 10月 ◎ ポケットギャラリー開催
→ 大通り商店街との連動企画として開催
◎ ホワイトフェス1999-若手による成果発表展示会



オケクラフト新人展

平成五年に設立したオケクラフト生産者共同組合「おけと新緑クラフト」が初の事業として企画した展示会。平成六年一月から東京日本橋クラフトセンター・ジャパンで開催された展示以降、名古屋、京都、岡山、札幌と会場を移動しながら同年五月末まで開催された。会場にはエゾマツやカバを素材にしたお椀や皿、状差しなど約五十点程が並んだ。

クラフトパーク実施計画策定

平成四年に計画策定されたクラフトパーク構想をもとにしたもので、報告書で述べられた具体的な計画案を、町民自らが現実感を持って議論に参加することができるよう、報告書とは別に町としての実施計画案を策定した。クラフトパーク計画報告を尊重し、事業を選択的に優先するのではなく、財源の確保や緊急度、社会的環境の熟成度に応じて実施計画が策定された。

「どま工房」完成

平成六年の春頃から建設が進められたどま工房は、同年十一月末に完成。十二月には内部のお披露目を兼ねた展示会「日本のクラフト展」が開催され、仮オープンした。展示品には日本全国の暮らしの道具を集め、オケクラフトはもろろのこと、日本全国の木製品や竹細工、漆器、織物など約三百点が展示販売された。どま工房は年内に一度閉館し、内部の仕事を揃え、翌年一月に本オープンした。

【沖縄クラフト展】

秋岡さんの仲立ちで、北と南の工芸作家の交流を図ろうと開催された。どま工房を会場に約五百点の作品が展示販売された。

【オケクラフトフェスティバル】

森林工芸館等が主催して初めて開催された「オケクラフトフェスティバル」は、カッティングボードや木とんぼ等のモノづくり教室のほか、「もつと馬力だすべえ祭」会場でのオケクラフト販売会が実施された。

秋岡芳夫と秋岡コレクション

十五年近くにわたり、置戸に示唆を与え続けてくれた秋岡芳夫さんが、平成九年四月十八日にその生涯を閉じました。同年六月、ゆかりの深いどま工房にて「秋岡芳夫を偲ぶ会」が開かれ、関係者ら五十名が思い出を語り合い、秋岡さんとの別れを偲びました。

同年十二月、ご遺族の意向により秋岡さんのコレクションが置戸へ一括寄贈され、翌年四月には秋岡さんのもとで、長くアシスタントを務めた増田倫子さんが研究員として置戸に移住。資料整理を進め、十一月には中央公民館を会場に「モノに学ぶ・暮らしを創る」展を開催しました。